| 学校番号 | １０１５ |
|---|---|

平成 31 年度　美術科

| 教科 | 芸術 | 科目 | 美術Ⅰ | 単位数 | ２単位 | 年次 | １年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 高校美術１（日本文教出版） | | | | | | |
| 副教材等 | 使用していない | | | | | | |

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・絵画、立体、デザインなどの実技を伴う「表現」と様々な芸術作品や他の生徒の作品を見て、他の人の感性や考え方を理解する「鑑賞」のふたつの領域を学習する。

・美術を通して何かを感じる力（感受性）、考える力（審美観）、伝える力（表現力）を身につける事をねらいと目標とする。

2　学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:美術への関心・意欲・態度 | b:発想や構想の能力 | c:創造的な技能 | d:鑑賞の能力 |
|---|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 美術の創作活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。 | 感性や創造力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。 | 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現に活かすことができる。 | 美術作品や友人の作品を見て、その良さや工夫した点を理解し、味わうことができる。 |
| 評価方法 | 制作の様子<br>アイデアスケッチ<br>グループワークの様子 | アイデアスケッチ<br>制作途中の作品<br>作品 | 制作途中の作品<br>作品 | 鑑賞中の態度<br>発言内容<br>鑑賞レポート |
| 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。<br>学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。 | | | | |

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | a | b | c | d | | |
| 前期 | 鉛筆デッサン・レタリング | 【絵画】<br>・オリエンテーション<br>絵による自己紹介<br>・鉛筆デッサン「立方体」<br>・レタリング | ○<br>○<br>○ | | | | a:対象を見つめて、形態の構造を理解することができる。<br>形態の単純化を理解できる。<br>立体の面に印刷されている文字を斜体で表現できる。 | 学習活動の様子<br>制作の様子<br>作品 |
| | アクリル絵具の技法 | 【絵画】<br>・抽象表現<br>各自購入のアクリル絵具で、交じり合う色の美しさを感じながら抽象表現に挑戦する。6種類の色面を作りそれぞれに題名をつける。 | ○ | ○ | ○ | | a:混色のイメージを持ち、重なる色の美しさに気づかせる。<br>b:完全に交じり合うと１色の色になる為、その手前で筆を置き、効果的な色面を理解している。<br>c:抽象の面白さを理解し、アクリル絵具の特徴を理解している。 | 学習活動の様子<br>制作の様子<br>作品 |
| | 鑑賞レポート | 【鑑賞】<br>夏休みに開催される「高校展」を鑑賞しレポートを書く。 | ○ | | | ○ | a: 鑑賞を通じて、作者の意図や表現の工夫、美しさに共感することができる。<br>ｄ：作品の良さを理解し、文章にまとめることができる。 | 鑑賞の内容 |
| 後期 | 未来ロボット | 【絵画】<br>・イメージ表現<br>・鉛筆デッサン<br>・抽象表現<br>これまで学んできたことすべてを総ざらいする作品作りを行う。 | ○<br>○ | ○<br>○<br>○ | ○<br>○<br>○ | | a:現代社会の中で活躍する「ロボット」の技術改革に興味を持ち、自らも世の中で活躍するロボットをイメージして創作する。<br>b:ロボットをデッサンの技術を活かし立体的に表現する。<br>c:ロボットのイメージをアクリル絵具で抽象的な色面として表現する。 | 学習活動の様子<br>制作の様子<br>作品 |
| | 鑑賞レポート | 【鑑賞】<br>1月に開催される「8ブロック展」を鑑賞し、レポートを書く。 | ○ | | | ○ | a: 鑑賞を通じて、作者の意図や表現の工夫、美しさに共感することができる。<br>ｄ：作品の良さを理解し、文章にまとめることができる。 | 鑑賞の内容 |
| | 切り絵 | 【デザイン】<br>・左右対称形の構成<br>・カッターワーク<br>対象の文様を考え出し、美しいカットワークを施す。 | ○ | | ○ | | a:西洋・東洋の伝統的な装飾文様に関心を示し、表現方法を工夫している。<br>ｃ：カッターの持ち方を体得し技術として定着させている。 | 学習活動の様子<br>制作の様子<br>作品 |